

週刊 タバコの正体

満20歳未満の喫煙を禁止している『未成年者喫煙禁止法』は、1900年(明治33年)に制定されています。成長過程にある青少年が有害なタバコを吸うのは明らかに良くありませんが、それを法律で100年以上も前に規制していた国は多くありません。にもかかわらず、現実にはニコチン依存症になってしまう子どもは数多く存在し、現在もなくなっていません。

残念ながら、本校でも喫煙が発覚して指導される生徒は存在します。1200名のうちニコチン依存症の生徒が何人いるのかわかりませんが、その生徒はニコチン切れに耐えられずどこかでタバコを吸っているのです。

ところで、タバコを吸う高校生の姿を見たことがありますか。もし、そんな場面に遭遇した人がいれば、その時あなたはどんな気持ちになり、どんな行動をとったか覚えていますか。相手が全く知らない人なら、いやな気分になりながら、多分「見て見ぬふり」をして通りすぎた事でしょう。

しかし、それが友達だったと知ら、あなたはどんな行動をとるでしょうか。……「見なくてもいいものを見てしまった」と後悔する人もいれば、「あいつ、タバコを吸うのか」と驚く人もいるでしょうが、知らない人の場合と同じように「見て見ぬふり」をして通りすぎるのではないのでしょうか。

では、世間の人はどう感じるでしょうか。例えば、和工の制服を着たままタバコをくわえている姿をみた人の気持ちを想像してみてください。

「あれっ、あの子、和工の子やで……」と思われた瞬間から、和工の評価は大きく低下するのは目にみえますよね。そして、たった一回見ただけでも「和工の生徒はタバコを吸っている」という事実は、その人の口から世間に流れ、「和工にはタバコを吸っている生徒がいるからなあ」という風評が広がる可能性は大きくなります。

1200人のうちの大多数は、「一生タバコは吸わないつもり」の生徒ばかりなのに、ほんの数人のために、「和工の生徒はタバコを吸う」と評価されてしまうのは、本当に不本意です。

そこで、皆さんに考えて欲しい事があります。タバコを吸う友達を「見て見ぬふり」をしていても良いのでしょうか。友達がタバコを吸うのは、自分には関係のない事かも知れません。でも、本人のために、自分たちのために、そして和工のために、タバコを吸わせない行動が必要ではないのでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久